

令和4年夏シーズン（7・8月）における立山・劔岳での山岳遭難事故の現状

飛 弾 晶 夫（富山県警察本部山岳安全課山岳警備隊長）

1 概要

(1) 立山・劔岳での山岳遭難事故発生状況

令和4年夏シーズンにおける立山・劔岳での山岳遭難は、発生件数は21件（前年対比+3件）、遭難者数は23人（前年対比+2人）で、うち死者は2人（前年対比±0人）、負傷者は11人（前年対比+1人）、無事救出は10人（前年対比+1人）であり、新型コロナウイルス感染症への行動制限が約3年ぶりに緩和されたことや政府の全国旅行支援の後押しなどにより、新型コロナの夏の流行や8月中旬から発生した台風や大雨の影響があったものの、立山黒部アルペンルートへの入り込みが前年より大きく増加したほか、公営キャンプ場の利用者や室堂での登山届提出も前年より増加したことなどが影響したものと推察される。

(2) 過去5年間の立山・劔岳での山岳遭難事故の推移

過去5年間の夏山シーズンにおける立山・劔岳での山岳遭難発生状況をみると、平成30年の39件41人から令和元年の45件48人へと増加したが、新型コロナの感染が拡大した令和2年の19件22人から令和3年の18件21人へと2年連続で減少したものの、令和4年は21件23人へと再び増加に転じた。

(3) ヘリコプターの出動状況

ヘリコプターの出動状況をみると、新型コロナの感染が拡大した令和2年は84.2%、令和3年は66.7%と高い割合を占めていたが、新型コロナの防疫対策を徹底した柔軟な山岳警備隊員

の運用を図るなど警備体制を見直した結果、令和4年は47.6%と、新型コロナ前の割合に減少した。

2 特徴

(1) 態様別

態様別でみると、転・滑落が7人と最も多く、次いで転倒が6人、道迷いが5人であった。

また、病気が4人で、新型コロナの発病が3人であり、うち2人が山小屋関係者で、感染状況から山小屋に宿泊又は立ち寄った登山者から感染した可能性が高いものと推察される。

(2) 転倒、転・滑落の遭難状況

ア 原因別

転倒、転・滑落の遭難者13人について、原因別でみると、スリップが7人と最も多く、次いで浮き石踏みが2人であった。

イ 発生時間区分別・移動区分別

発生時間区分別でみると、8:00～10:59が4人と最も多く、次いで11:00～13:59が3人であった。

また、移動区分別でみると、下りでの遭難が7人で、うち6人は登頂後の下山中の遭難であった。

ウ 発生場所の詳細

立山では、一ノ越から雄山山頂までの登山道での遭難は、令和2年と令和3年には発生しなかったが、令和4年は3人であった。

また、劔岳では、別山尾根ルートなどの登山道での遭難に顕著な増減の変化はみられな

いものの、令和4年は、令和3年には発生しなかったバリエーションルートにおいて単独登山者が死亡する事故が2件発生した。

(3) 年齢層別

遭難者のうち40歳以上が17人と全体の73.9%を占め、また、60歳以上が8人と34.9%を占めている。

また、単独登山者が9人で、全体の42.9%を占めているほか、死者の2人は、40歳以上で剣岳のバリエーションルートでの遭難であったほか、令和3年に続き、全て単独登山者であった。

(4) 登山経験3年以下の遭難状況

登山経験3年以下の遭難者は23人のうち10人で43.5%を占めており、態様別で見ると、転倒が6人のうち4人と最も多く、次いで道迷いが5人のうち3人であった。

また、年齢層別で見ると、20歳代から70歳代の幅広い年齢層に分布しているほか、新型コロナ前の令和元年の登山経験3年以下の遭難者の割合(29.2%)と比較すると14.3ポイント高くなっている。

表1 令和4年夏シーズンの山岳遭難事故発生状況

	発生件数	遭難者数				
		死者	行方不明	負傷	無事救出	
令和4年	21	23(8)	2		11(6)	10(2)
7月	10	10(5)	1		4(3)	5(2)
8月	11	13(3)	1		7(3)	5
令和3年	18	21(7)	2(1)		10(5)	9(1)
7月	9	9(3)			4(2)	5(1)
8月	9	12(4)	2(1)		6(3)	4
前年対比	+3	+2(+1)	±0(-1)	±0	+1(+1)	+1(+1)

※ ()は、60歳以上で内数

表2 令和4年夏シーズンの年齢層別死傷者

	遭難者数				
	死者	行方不明	負傷	無事救出	
19歳以下					
20歳代	2[1]			2[1]	
30歳代	4		1	3	
40歳代	4[2]	1[1]	1	2[1]	
50歳代	5[3]	1[1]	3[2]	1	
60歳代	5[3]		3[1]	2[2]	
70歳以上	3		3		
合計	23[9]	2[2]	0	11[3]	10[4]

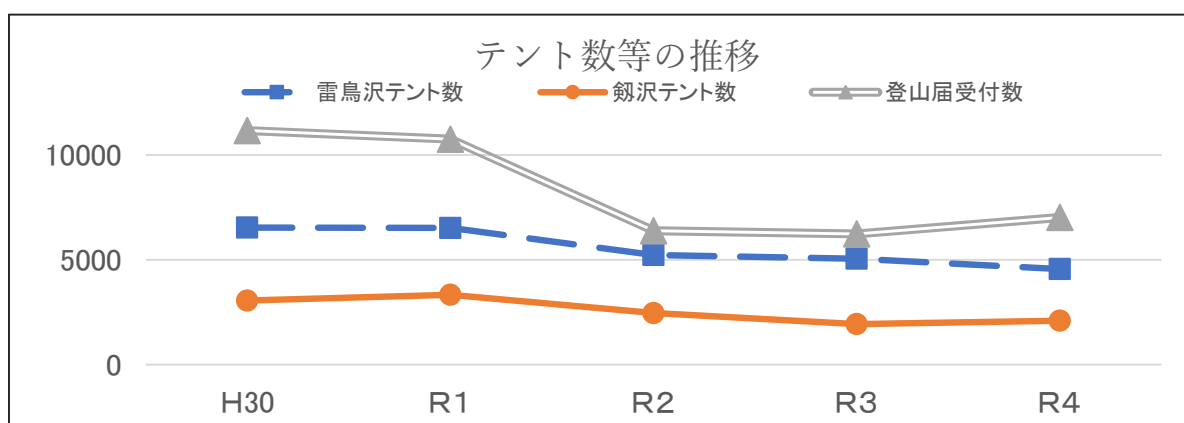
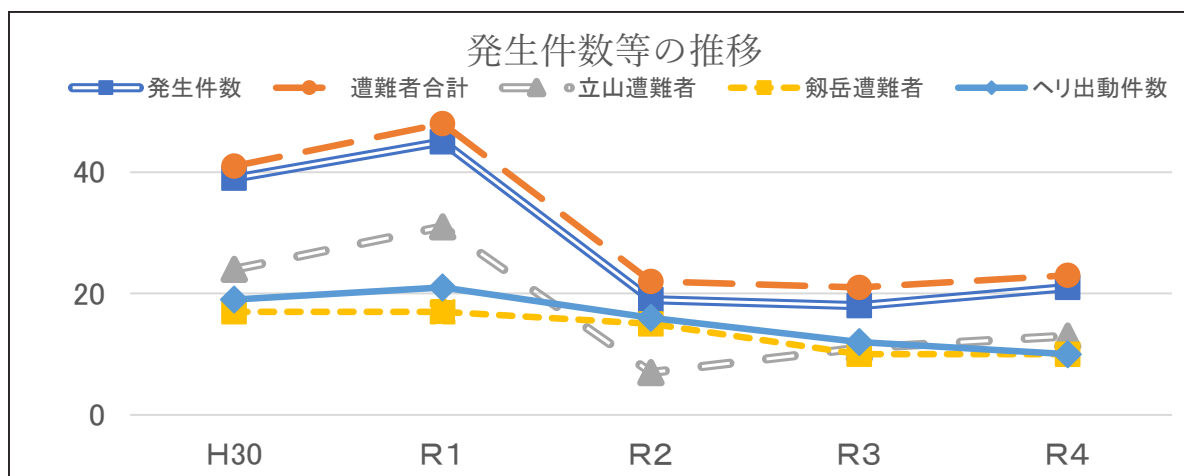
※ []は、単独で内数

2. 登山界の現状と課題

表3 過去5年の概要

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
発生件数	39	45	19	18	21
遭難者数	41[14]	48[10]	22[9]	21[8]	23[9]
死者	1	3 [2]	2 [1]	2 [2]	2 [2]
行方不明	0	1 [1]	0	0	0
負傷	26[10]	21[6]	11[4]	10[3]	11[3]
無事救出	14[4]	23[1]	9 [4]	9 [3]	10[4]
登山届提出数	24	33	16	14	11
ヘリ出動件数	19{2}	21	16	12	10
飛行回数	19{2}	27	21	12	11
警察ヘリ	19{2}	21	13	8	11
防災ヘリ	0	6	8	4	0
登山届受付数	11,164	10,752	6,384	6,234	7,022
雷鳥沢テント数	6,535	6,519	5,226	5,050	4,560
剣沢テント数	3,055	3,331	2,459	1,935	2,093

※1 []は、単独、{ }は、他所属ヘリで内数
 ※2 登山届は、室堂警備派出所受付のみ計上
 ※3 令和4年の雷鳥沢・剣沢テント数は暫定値



※ 令和4年の雷鳥沢・剣沢テント数は暫定値

表4 令和4年夏シーズンの登山届（室堂警備派出所受付）の詳細

	日 帰 り	1 泊 2 日	2 泊 3 日	3 泊 以上	合 計
立 山	4,641 [1,401]	1,048 [259]	325 [61]	3 [1]	6,017 [1,722]
雄 山	4,194 [1,198]	541 [110]	87 [10]	1 [1]	4,823 [1,319]
三 山 縦 走	112 [47]	434 [111]	232 [50]	2	780 [208]
浄 土 山	111 [69]	7 [3]	2 [1]		120 [73]
別 山	52 [35]	25 [22]	2		79 [57]
竜 王 岳	19 [2]	24 [3]	2		45 [5]
黒 部 平	6 [5]	3 [1]			9 [6]
室 堂 平 周 辺	147 [45]	14 [9]			161 [54]
劔 岳	1 [1]	238 [146]	426 [214]	7 [1]	672 [362]
別 山 尾 根	1 [1]	229 [143]	381 [206]	6 [1]	617 [351]
源 次 郎 尾 根		4 [1]	16 [3]		20 [4]
平 蔵 谷		2 [2]	6 [1]		8 [3]
長 次 郎 谷			6		6
八 ツ 峰		1	9 [2]	1	11 [2]
北 方 稜 線		2	8 [2]		10 [2]
そ の 他	28 [12]	227 [88]	63 [25]	15 [7]	333 [132]
大日・奥大日方面	28 [12]	65 [23]	22 [6]		115 [41]
五色・薬師方面		162 [65]	41 [19]	15 [7]	218 [91]
合 計	4,670 [1,414]	1,513 [493]	814 [300]	25 [9]	7,022 [2,216]

※ []は、単独で内数

2. 登山界の現状と課題

表5 態様別遭難者

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
転倒	12(7)	15(8)	5(1)	6(3)	6(3)
転・滑落	11(7)	4(1)	6(2)	5(3)	7(3)
道迷い	3(2)		2(1)	3(1)	5(1)
病気	9(1)	14(5)	5(1)	3	4
疲労	2(2)	6(5)			1(1)
悪天候				1	
落石	3(1)	1	1(1)		
野生動物襲撃	1(1)				
その他		5(1)	3(2)	3	
不明		3(2)			
合計	41(21)	48(22)	22(8)	21(7)	23(8)

※ ()は、60歳以上で内数

表6 病気の原因別遭難者

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
高山病	5	6	2	1	
熱中症		1	1	2	
心疾患			2(1)		
その他	4(1)	7(5)			4
尿管結石等	2				1
腹痛(腸炎等)	1(1)	1(1)			
喘息		2(1)			
新型コロナウイルス					3
その他	1	2(1)			
不明		2(2)			
合計	9(1)	14(5)	5(1)	3	4

※ ()は、60歳以上で内数

表7 転倒・転落・滑落の原因別遭難者

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
スリップ	9<6>	6<6>	4<2>	2<1>	7<4>
バランス崩し	6<4>	8<5>	4<3>	3<2>	1<1>
つまづき	4<2>	2<1>		3<3>	
浮き石踏み	3<2>	2<2>		1<1>	2<1>
浮き石つかみ			1		
ハーケン抜け			1	1	
アイゼン引っ掛け	1<1>				
その他		1<1>		1	1<1>
不明			1		2
合計	23<15>	19<15>	11<5>	11<7>	13<7>

※ < >は、下りで内数

表8 転倒・転落・滑落の発生時間区分別遭難者

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
4:00～7:59	2<1>				2<1>
8:00～10:59	7<4>	4<3>	7<3>	3<2>	4<2>
11:00～13:59	9<6>	10<9>	3<2>	4<2>	3<2>
14:00～16:59	3<3>	5<3>		3<3>	2<2>
17:00～19:59	2<1>			1	
不明			1		2
合計	23<15>	19<15>	11<5>	11<7>	13<7>

※ <>は、下りで内数

表9 立山の発生場所別遭難者

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
室堂平～一ノ越	2	4 ^③	2	1 ^①	2 ^②
浄土山北斜面		1			2 ^②
祓堂	2	1 ^①	2	1 ^①	
一ノ越直下		2 ^②			
一ノ越～雄山	6 ^⑤	6 ^④			3 ^②
二ノ越	3 ^③	2 ^②			1 ^①
三ノ越	2 ^①	4 ^{②①}			1 ^①
四ノ越・山頂	1 ^①				1
雄山～大汝山	3 ^③				
富士ノ折立	1 ^①	1 ^①			
真砂岳～別山乗越	1	1		2 ^①	
真砂岳大走り		4 ^①	1 ^①	1 ^①	
雷鳥坂		2 ^②	1		
室堂乗越	1	2		1	1
雷鳥沢～室堂平	1	1			
雷鳥沢～一ノ越					2
室堂山	3 ^①	1 ^①		1	
浄土山	1		1 ^①	2 ^{①①}	
鬼岳	2 ^②			1 ^①	1 ^①
獅子岳	1 ^①				
弥陀ヶ原平周辺		1 ^①	1	1	2 ^①
龍王岳東尾根					1 ^①
山小屋・キャンプ場等	2	7	1 ^①	1 ^{①①}	1
不明		1 ^①			
合計	24 ^⑬	31 ^{⑬②}	7 ^{②①}	11 ^{⑥②}	13 ^⑦

※ □は、転倒、転・滑落で内数

※ ○は、死者・行方不明者で、●は、単独死者で内数

2. 登山界の現状と課題

表10 劔岳の発生場所別遭難者

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
別山尾根ルート	7 [6]	3 [2]	5 [4]	1	2 [2]
一服劔	2 [2]				
前劔	2 [2]	2 [1]	4 [4]	1	2 [2]
前劔大岩周辺	1 [1]	1	3 [3]		1 [1]
前劔山頂周辺		1 [1]	1 [1]		
平蔵の頭周辺	1 [1]			1	1 [1]
本峰	3 [2]	1 [1]	1		
カニのヨコバイ	1 [1]				
山頂周辺	2 [1]	1 [1]	1		
劔沢	2 [2]	3 [3]	1		1 [1]
三田平周辺	2 [2]	2 [2]	1		
真砂沢～劔沢二股		1 [1]			1 [1]
仙人新道	1				
ハシゴ谷尾根				2	
早月尾根	1 [1]	3 [1]		3 [3]	1
松尾平周辺	1 [1] ①	1			1
2,200m未満				3 [3]	
2,200m以上		2 [1]			
平蔵谷	1 [1]				
源次郎尾根		4 ●			1 [1]
八ッ峰	2		1 [1]	4 [2]	1 [1] ①
VI峰フェース			1 [1]	1 [1]	
下半縦走路	2			3 [1]	
上半縦走路					1 [1] ●
チンネ			2 [2] ●		
北方稜線(小窓ノ王)		1 ●	1 [1]		
池ノ谷左俣			4		
三ノ窓尾根					1 [1] ●
立山川			1 [1]		
山小屋・キャンプ場等	3	3			3
合計	17 [10] ①	17 [6] ②	15 [9] ①	10 [5]	10 [6] ②

※ □は、転倒、転・滑落で内数

※ ○は、死者・行方不明者で、●は、単独死者で内数

表11 年齢層別遭難者

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
19歳以下	5	5	1	1	
20歳代		2 [1]	1	4	2 [1]
30歳代	2	2 [1]	2 [1]	5 [3]	4
40歳代	7 [4]	7	4 [2]	3	4 [2]
50歳代	6 [1]	10 [3]	6 [4]	1 [1]	5 [3]
60歳代	10 [5]	14 [3]	4	6 [3]	5 [3]
70歳以上	11 [4]	8 [2]	4 [2]	1 [1]	3
合計	41 [14]	48 [10]	22 [9]	21 [8]	23 [9]

※ []は、単独で内数

表12 年齢層別の死者・行方不明者

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
19歳以下					
20歳代					
30歳代		1 [1]		1 [1]	
40歳代			2 [1]		1 [1]
50歳代					1 [1]
60歳代		2 [1]		1 [1]	
70歳以上	1	1 [1]			
合計	1	4 [3]	2 [1]	2 [2]	2 [2]

※ []は、単独で内数

表13 登山歴3年以下の態様別遭難者

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
転倒	3	5 [1]		1	4 [1]
転・滑落	2				1 [1]
道迷い	1 [1]			2 [1]	3 [1]
病気	2	5	1	2	2
疲労		2			
落石	1	1			
その他		1			
合計	9 [1]	14 [1]	1	5 [1]	10 [3]

※ []は、単独で内数

表14 登山歴3年以下の年齢層別遭難者

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
19歳以下	4	5	1	1	
20歳代				3	2 [1]
30歳代				1 [1]	2
40歳代	1	1			2
50歳代	2	3			2 [1]
60歳代	1 [1]	5 [1]			1 [1]
70歳以上	1				1
合計	9 [1]	14 [1]	1	5 [1]	10 [3]

※ []は、単独で内数